

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果(岡部西小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学
岡部西小	76	68
埼玉県	上回った	上回った
全国	上回った	上回った

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	岡部西小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	90.3	94.4	93.7
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	95.1	84.5	82.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	97.6	92.3	91.6
学習習慣	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	97.5	83.3	80.7
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をする(学習塾や家庭教師、ICTを活用して学ぶ時間も含む)	80.5	58.5	54.6
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	26.8	22.3	21.5
	放課後や週末に、家で勉強や読書をして過ごすことが多い	51.2	50.2	49.3
教科への関心	国語の勉強は好きだ	75.7	63.0	62.0
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	100.0	94.0	93.2
	算数・数学の勉強は好きだ	75.6	60.4	61.0
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	95.1	94.8	94.1
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	95.1	85.4	81.9
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	90.2	73.3	67.6
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	97.5	84.0	79.6
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた	100.0	88.9	86.3
その他	自分には、よいところがあると思う	87.8	85.9	84.1
	将来の夢や目標を持っている	90.3	83.6	82.4
	人の役に立つ人間になりたいと思う	100.0	96.2	95.9
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	92.7	84.3	83.5

【質問紙分析】

- ・ 県や全国の値と比較して、ほとんどの項目で上回っている。
- ・ 国語や算数を「好きだ」と答えた児童はともに全国を 15%程度上回っている。
- ・ 「主体的・対話的な学び」は上記の 4 項目全てで大きく上回っている。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

○2 三ア、イ

出題の趣旨は「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」であるが、授業での漢字学習や家庭学習の習慣化により漢字の確実な定着が図れている結果だと考えられる。

○3 一

出題の趣旨は「文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる」であるが、業前学習（スキルアップ）で学力向上プロジェクトや言葉の特徴や使い方に関する問題に繰り返し取り組んだ結果だと考えられる。

●1 二（2）

出題の趣旨は「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」であるが、指示された資料と選択肢の条件を読み比べて、正しく該当するものを選べていないと考えられる。

●2 二

出題の趣旨は「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」であるが、資料から言葉や文を引用することはできているものの、自分の考えを書くことができない児童がいると考えられる。

【算数・数学】

○2（1）

出題の趣旨は「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」であるが、授業等でかけ算の計算のきまりを身に付けることができている結果だと考えられる。また、簡易な図からの読み取りができている児童が多いと考えられる。

○4（1）

出題の趣旨は「除数が少数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる」であるが、授業や家庭学習の習慣化により基礎的な計算力の確実な定着が図れている結果だと考えられる。

●4（3）

出題の趣旨は「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」であるが、道のりが等しいときの時間を基にした速さの判断方法については普段使う機会が少ないため身に付いていないことや与えられた条件に必要な説明を加えながら解答として成り立たせることができない

い児童が多いと考えられる。

● 4 (4)

出題の趣旨は「速さの意味について理解しているかどうかをみる」であるが、条件が複数に分けて与えられると条件を選択したり、条件を正しく使ったりすることができない児童がいると考えられる。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・ 条件作文への取組み（朝活動）
- ・ 条件の読み取り方と表現方法の指導（授業）
- ・ まず原稿を使ったときの文章表現の決まりの指導（授業、朝活動）

【算数・数学】

- ・ 自分の考えを文章表現する場合の表現方法についての指導（授業、教科横断的）
- ・ 算数科としての表現方法やきまりなどの指導（授業）
- ・ 各単元での基礎的な学習内容の定着の徹底（授業、朝活動）